

赤穂市立有年考古館 令和3年度企画展

染の形紙

― 紺屋・松岡家 ―

展示会期

2022

10.27 - 1.10



染の形紙

— 紺屋・松岡家 —



赤穂市立有年考古館を創設した松岡秀夫氏の生家は、赤穂郡有年村榎原新田（現在は赤穂市有年榎原）で染物屋（紺屋）を営んでいました。

松岡家は安政年間（1885 ～ 1860 年）から大正時代頃まで染物屋を営んでおり、有年考古館にはその時に松岡家で使用されていた染形紙が 600 枚以上も残されています。

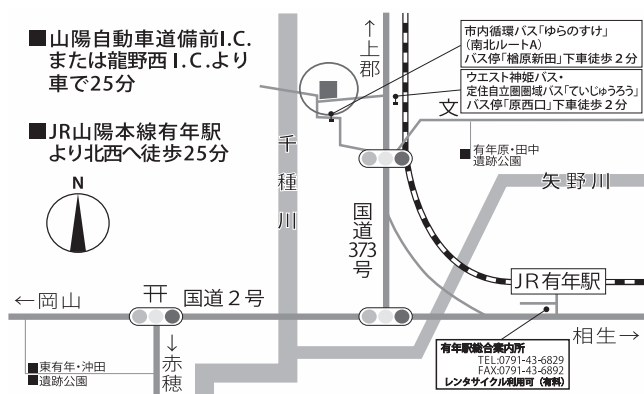
染形紙（染型紙とも）とは浴衣や袴などの着物、布団地に文様を染め付けるために使用された紙のことで、柿渋で耐水性を持たせた和紙に、職人が手彫りで繊細な文様を彫りこんだものです。

形紙は伊勢白子（三重県伊勢市）・播州三木（兵庫

県三木市）・京（京都府京都市）などで生産されたものが行商人の手によってはるばる有年地区まで持ち込まれ、当時の最先端の流行を伝えました。形紙には各地の職人によって、様々な文様が微細に彫りこまれています。

こうした染形紙からは、伝統的な和柄の美しさはもちろん、当時の職人の技術の高さ、有年の人々の流行・好み、そして有年地区の歴史や風土なども知ることができます。

今回の展示では、松岡家に所蔵されていた染形紙の美しさと職人の技術の高さ、そこからわかる歴史をご紹介します。



赤穂市立有年考古館



〒678-1181 兵庫県赤穂市有年榎原1164番地 1

TEL・FAX 0791-49-3488

入館無料

- 休館日■ 火曜日 ※火曜日が祝日と重なる場合は次の平日
年末年始（12月28日～1月4日）
- 開館時間■ 午前10時～午後4時（入館は午後3時30分まで）
- Webサイト■ 「赤穂市立有年考古館」で検索！
- Mail■ bunkazai@city.ako.lg.jp